



## ついに政治を動かす 少人数学級

## さらに前に！

小中1学級あたりの上限人数めぐる動き

1958年	義務教育標準法が制定され、小中学校の全学年で50人学級を法制化
64年度～	法改正で段階的に45人
80年度～	法改正で段階的に40人
2009年	旧民主党政権誕生
11年度～	法改正で小1のみ35人
12年12月	自民党が政権奪還
14年10月	財務省が小1の40人学級復活を提案(実現せず)
20年9月	自民党「教育再生実行本部」が「30人学級の推進」まとめる
同	文科省が概算要求で少人数学級の導入盛り込む
12月	21年度から小学校のみ段階的に35人学級化が決定
21年1月～	通常国会に法改正案を提出予定

2021年度から5年かけて段階的に小学校で35人学級の導入が決まりました。一学級あたりの人数引下げは何と40年ぶり、政府を動かしたのは、新型コロナウイルス拡大のもと、かつてなく広がった少人数学級の実現を求める声や運動です。

豊中でも全国の教育研究者有志の署名や国・府への教育署名、豊中市へのさらき署名に取り組みました。また、豊中の退職教職員が中心となって「子どもたちに20人学級をプレゼントしたい！市民の会」が結成され、6000筆をこえる署名が集約されました。

35人以上の学級が多くある豊中の学校現場で35人学級が進むことは大きな意味があります。

しかし、コロナ禍の分散登校時には不登校傾向の子どもたちが登校できた経験を全国でも聞いています。

30人以下の学級にしていること、また、小学校に限定した今回の決定にとどまらず、中学にも広げるさらなる運動や声を広げる必要があります。

**慢性的講師不足  
少人数学級を見通して  
教員採用人数増を**

配置されるべき先生がいない事態が今年もおこっています。豊中の学校現場ではこうした異常な事態が慢性化しています。

豊中市教育委員会は慢性



OECD諸国でも最低レベル。教育にお金をかけていません。

新たな生活様式がいわれられています。学校現場では今も「密」が避けられません。国の35人学級まちにせず、先行して市費35人学級をすすめること、市費でのさらなる少人数制度を全教豊中は求めます。

**コロナ禍—  
密が避けられない現場**



# GIGA スクール構想とは？

(1)

現場にタブレットが配られ、ICT教育、GIGAスクール構想と言ったことが、当たり前のように進められようとしています。

昨年11月、「子どもたちに20人学級をプレゼントしたい！市民の会」主催の学習会で大教組(大阪教職員組合)の今井教文部長に「GIGAスクール構想」について話をしてもらいました。その内容を紹介します。

## はじめに

新型コロナウイルス感染拡大の下で、学校にほとんどICTが導入されています。今の時代を考えれば、ICTを使うことは必要ですので、全面的に反対することは現実的ではありません。しかし、その一方で、ICTについて、多忙化の中で批判的な検証なしに受け入れることについても、問題であると考えます。特に、今年度大きく動き

出したGIGAスクール構想については、「子どもたちのために、本当に望ましいものなのか」という観点での検証が必要です。

## 1. GIGAスクールってなんだ？

(1) GIGAスクールとは。

まず、GIGAスクール構想とは何か、簡単に答えるならば、次の2点が答えです。

- ① 子どもたち1人が一台の端末をえるようにするなど、学校でのICT設備を強化する。
- ② 端末を使って教育に関するデータを国が集約して管理統制する。

②については、そもそも文科省の「GIGAスクール構想ロードマップ」の中にも「教育ビッグデータの構築」と書かれています。

また、現在の中教審答申

素案や、経団連の「新成長戦略」の中でも、健康診断の結果や、全国学テなどの調査結果、成績、等の収集が求められており、これらのデータを共有するための個人情報保護法の規制緩和までも求める声もあります。

(2) キャリアパスポートとGIGAスクールを結びつける危険性

また、これに関わって、大阪府では小学校と中学校にキャリアパスポートと言うものがやってきました。どんなものかと言いますと、小学校から中学校卒業まで一学校の望ましい姿に向けてのとりくみの中で、学校で勉強したことや到達度を

自己評価させて、記録していくというものです。自分の将来なりたいこと、入っていた部活で頑張ったことなど。

このことにより、学校の望ましい姿に向けて、子どもを管理する動きの強化も懸念されます。

しかもこれは高校までもっていくものです。毎年5枚を上限とするところが5枚のキャリアパスポートは6年卒業時には30枚、中学校卒業時に一人45枚、です。これら莫大な量のキャリアパスポートの管理が求められるのですが、この「紙の管理を簡単にするためにデータ化する」という対応がとら

れることも考えられます。

現に、高等学校では、高校版キャリアパスポートともいふべき「portfolio」ポートフォリオという形で高校での成績や部活動などの課外活動などのデータが集約されています。

恐ろしいのは、こうした情報をを使って大学入試や将来の就職にも利用しようとしていっていることです。

電子化されれば何が起るのか。データ化された情報は残り続けます。小学校1年生の時に書いたキャリアパスポートが、将来にわたって企業や政府に管理され、利用されることになり

GIGAスクールの「GIGA」は「Global Innovation Gateway for AI」(全てのための国際的で革新的な出入口)とされています。そのため、多くの説明では、「すべての子どもたちに国際的で革新的なものへの入り口を」というような考えが語られています。しかしながら、そもそも文には「子どもたち」は文言としてありません。この点については後に述べます。



